

ななかまど

NANAKAMADO

Hokkaido Information University Magazine

Volume 82

Published on September 20, 2024

Ascend

特集

さらなる高みを目指して





June 20

体育祭

6月14日(金)、15日(土)に体育祭が開催されました。今年度はソフトボール、バドミントン、ポッチャ、ソフトバレー、卓球の5種目が行われ、約350名の学生が競い合いました。さらに、今回の体育祭では新しくミニゲームとゲリライベントが行われました。どちらも今までに無い試みでしたが、大いに盛り上がっていました。

2日目の最後には恒例の交流会が行われ、学生たちは体育祭での疲労を労い、健闘を称えあっていました。



学生実行委員会 委員長
つかもと てるき
塚本 暉規さん
医療情報学科3年

新しい試みである「ミニゲーム」と「ゲリライベント」発案のきっかけは体育祭の空き時間に着目したことでした。今までの体育祭は競技とジンギスカン交流会だけだったため、観戦のみの学生や試合に負けた学生は空いた時間がありました。そこで、空き時間を埋めるものとして思いついたのがこれらの企画です。運営人数の確保とミニゲームの得点調整には苦労しましたが、当日は想定以上の方に来て遊んでいただけました。今後は小さなものも含めて、出来るだけ多くの時間、体育祭を楽しめるように企画していきたいと思っています。



このコンテストは以前まで、学生がプログラミングやソフトを駆使して制作した成果物を評価するもので、参加学生が3・4年生に偏ったり、多種多様な成果物が提出されるために評価が難しかったりする等の問題がありました。そのため、今年度からコンテスト方式を一新し、競技プログラミング形式で行いました。これは、限られた時間内に複雑な問題を解決するためのプログラムを作成するプロセスを通じて、高速かつ効率的な問題解決能力を鍛えることを目的としています。

まだまだ参加者は少ないと感じており、将来は学科の垣根を超えて多くの学生が参加するコンテストを目指して、体育祭以上の規模にしたいと思っています。



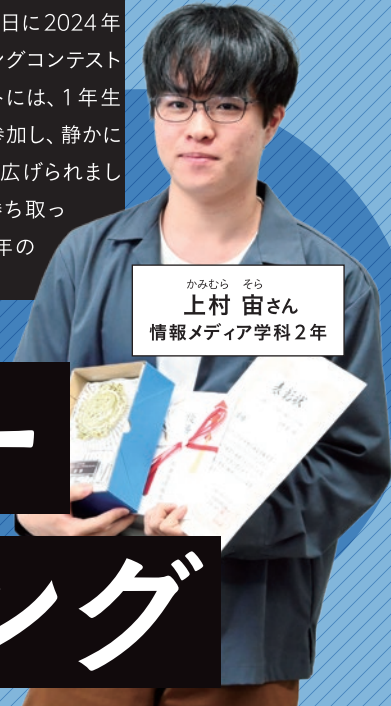
経営情報学部 システム情報学科

ながお みつよし
教授 長尾 光悦

14th,
24



「情報大生なんだから体力より技術力を競おう」とうたい、体育祭と同日に2024年度コンピュータープログラミングコンテストが開催されました。コンテストには、1年生から4年生までの計25名が参加し、静かにも白熱した戦いが繰り広げられました。激闘の末、見事優勝を勝ち取ったのは、情報メディア学科2年の上村 宙さんでした。



かみむら そら
上村 宙さん
情報メディア学科2年

コンピューター

プログラミング

コンテスト





情報大の

学生映像作品が JCF 学生映画祭で入賞



撮影時のひとコマ

情報メディア学科3年の武藤 楽さんむとう がくらが制作した短編映画『母さんの「か」』が、第17回JCF学生映画祭で入賞しました。(作品応募時は2年生)

本作品は武藤さんの初監督作品であり、おふくろの味を通じて希望を持ち、前へ進もうとする兄弟の姿を描いた作品です。

JCF学生映画祭は、「将来を担う若手クリエイターの発掘・育成」を目標に1999年から開催されてきた映画祭で、第17回となる今回は、日本全国から応募総数113作品が集まり、そのうち『母さんの「か」』を含む6作品が入賞しました。入賞者は、3月に行われた奄美大島での上映会に招待され、武藤さんも出席しました。

今回の受賞にあたり、チームを代表して監督の武藤さんに、本作品に込めた思いや、映像制作を行うようになったきっかけなどを伺い、次のように語ってくれました。

—— 映像に興味を持ったきっかけは？

武藤 幼少期から十勝勝毎花火大会とからかちまいはなびが大好きで、高校2年の時コロナで花火大会が中止になり、自分にはできないことはいかかと、一人で約半年をかけてバーチャルで花火大会を再現しました。その時、作品を見せた家族や友人・先生がとても喜んでくれたこと、その後先生が、高校の校舎に大きく映像を投影し、全校生徒向けに鑑賞会を企画してくれ、これまで話したことのない学生からもたくさん嬉しい言葉をかけてもらった経験から、映像が持つ人の心を動かす力に魅力を感じ、映像制作に興味を持つようになりました。

—— 『母さんの「か」』にはどんな思いを込めましたか？

武藤 今回の作品には、家族や親の大切さ、親への感謝をテーマに据えました。これは、一緒に作品を制作したチーム全員で話し合って決めたものです。そのテーマを基に、脚本、監督共に私が担当し、自分の実体験も要所に織り交ぜ、作品を見られる人が、家族や大切な人を愛することについて考えるきっかけになればという思いで制作しました。

—— 作品制作において思い出深かったことはありますか？

武藤 冬場の撮影で、寒さから長い時間をかけた撮影が難しく、思うように進まなかったのは大変でした。ただ、今回のチームは本当に仲がよく、皆が熱量を持って作業に当たってくれたので、そのおかげで納得のいく作品が出来上がったと思っています。

—— 最後に伝えたいこと、今後の抱負を教えてください。

武藤 この作品は、自分一人では絶対に作る事ができませんでした。初監督の自分を支えてくれたメンバー全員に感謝したいです。本当に最高のチームでした。今回の受賞を受け、映像制作に対する気持ちはますます強くなりました。今後も一つ一つの作品に思いを込めて、多くの人の心を動かせるような作品を作っていきたいです。



最高のチーム！

武藤 楽さん

『母さんの「か」』制作メンバー (いずれも情報メディア学科3年)

むとう がく 武藤 楽さん	つかもと けんた 塚本 健太さん	たかはし こうや 高橋 航陽さん
せき りょうが 関 諒夏さん	みやた しょう 宮田 祥さん	やまもと かい 山本 佳依さん
さわだ たくみ 澤田 匠さん	やない ゆうと 箭内 悠人さん	なかむら るきあ 中村 琉稀亜さん
まつざわ そうた 松澤 颯太さん		

にできることを。

学生活動

ITや医療、デザインを学ぶ北海道情報大学の学生たちは、まだ見ぬ高みを目指し、初めてのことに、新しいことへ日々挑戦し続けています。

コーヒーパッケージデザインコンペ

国の登録有形文化財である「北海道林木育種場旧庁舎」のPRを目的として、情報メディア学科の近澤研究室、坂本研究室、杉澤研究室は、江別市にある株式会社珈房サッポロ珈琲館と連携し、同社の商品パッケージを提案するコンペを開催しました。

「サッポロ珈琲館のブランドイメージを考え、落ち着きがあるなかにも江別の要素やイメージが特に伝わるデザイン」を基準とし、20の応募作品から3作品が優秀賞として選出されました。優秀賞作品は商品化され、江別市内の「サッポロ珈琲館【Rinboku】」と郵便局での販売及びふるさと納税の返礼品として活用される予定です。

また、表彰式は本学講堂で行われ、表彰された学生たちは株式会社珈房サッポロ珈琲館の伊藤 仁社長より、賞状と記念品が授与されました。



優秀賞



やまぐち はな
山口 桜花さん
情報メディア学科3年

コンセプト あたたかみ、歴史ある雰囲気

サッポロ珈琲館の歴史ある雰囲気を中心にしたいと思い、外側の枠やフォントでヨーロッパ風の歴史ある雰囲気を出しました。また、江別市民に親近感を感じてもらい、レンガの色のようなあたたかみを伝えたいので、目立ち過ぎないようにレンガのデザインを入れ、色であたたかみを表現し、テクスチャを粒状にし、レンガのような材質を表現しました。そして、角にコーヒー豆を入れてコーヒーだとわかるデザインにしています。

優秀賞



たけうち かなう
竹内 奏羽さん
情報メディア学科4年

コンセプト サッポロ珈琲館 (Rinboku) の温かみと自然の調和

Rinbokuを訪れた際に感じた、特徴的な外装や雰囲気の温かさ、そして自然が広がる雰囲気表現したいという思いで製作しました。建物の外装であるクリーム色をベースに、江別市の赤レンガを取り入れ、その外観を想起させるデザインを施しました。また、特徴的な赤い日よけを配置し、その横から木々が顔をのぞかせているような構図にすることで、窓から外をながめているかのような情景をイメージさせる狙いが込められています。

優秀賞



あおの みすみ
青野 光純さん
情報メディア学科4年

コンセプト 自然の中にある上品な温かい珈琲館の雰囲気

自然が豊かであり、温かい雰囲気を味わえる部分やヨーロッパ風の外観で上品なお店であることを伝えたくてデザインしました。商品名部分のあしらいに外観のデザインを取り入れ、自然の豊かさを周りに植えられているカエデを外側に配置して表現しました。また、江別内にあることを表すためレンガのデザインを周りに配置し、温かみを表現するために色彩にこだわり、江別四季の道に準えて4種類のパッケージをデザインしました。

佳作

かまた はな
鎌田 葉成さん 情報メディア学科4年

いしかわ こと
石川 古都さん 情報メディア学科3年

はまばた かなこ
濱端 華奈子さん 情報メディア学科3年

江別シティプロモート賞

ひらふじ うた
平藤 歌さん 情報メディア学科3年

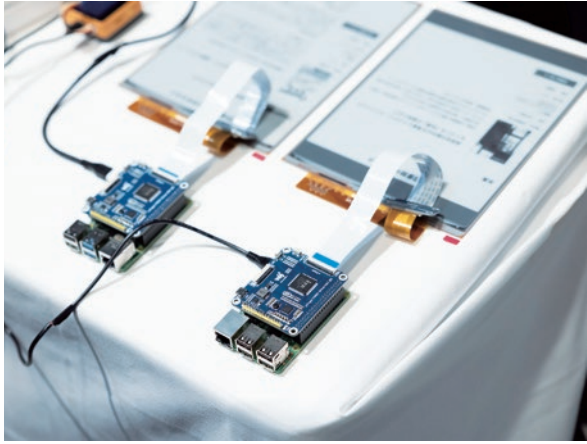
オーディエンス賞

かまた はな
鎌田 葉成さん 情報メディア学科4年





大学院生 デジタルサイネージの研究を発表



大学院経営情報学研究所 1年
あきば たかふみ
秋葉 貴文さん

3月12日(火)～14日(木)に沖縄県宮古島の宮古島市未来創造センターで開催された第64回情報処理学会インターネットと運用技術(IOT)研究会にて、秋葉 貴文さんが発表を行い、学生奨励賞を受賞しました。秋葉さんの研究から学会発表に至るまでの過程について聞いてみました。

— 今回の研究の概要を教えてください

秋葉 デジタルサイネージというのは通常液晶ディスプレイを用いて広告などの情報を映し出しているもの。デジタルサイネージの種類の一つに電子ペーパーサイネージがあり、ディスプレイ部分に電子ペーパーを利用します。通常の液晶ディスプレイを用いたサイネージでは映像を表示するために常に電力を消費しますが、電子ペーパーでは画面の切り替え時にのみ電力を必要としているので、省電力性に優れており、通常の紙と比べても切り替えが楽です。

ただ、電子ペーパー上の画面の切り替えをインターネット経由で行えるようにし、どこからでも切り替えできるようにしようとすると、切り替えを制御するコンピュータ自体に電力を消費してしまうため、その制御するコンピュータも省電力化したいというのが今回の研究内容となります。

— この研究を始めたきっかけはなんですか？

秋葉 大学2年の冬頃から「未踏IT人材発掘・育成事業」に何かだしてみようという話があり、その際にWebブラウザの仕組みなどに興味があったので、Webブラウザが組み込まれているIoT機器でプロジェクトを考えようとした際に、デジタルサイネージという言葉を知りました。

3年の時にデジタルサイネージの表示にリアルタイム性を持たせるため、VNC (Virtual Network Computing) を使用しようと考え、そのために、VNCを使用した際にはどのくらいの通信量が流れるのかを調べました。

そして4年生になり、デジタルサイネージに関する研究を続けようと考えたときに、電子ペーパーは普通のディスプレイと

比べ目が疲れにくかったり、あまり触ったことがなかったことから面白そうだと考え、今回の研究に行きつくことになりました。

— 研究の工夫した点や苦労した点はありますか？

秋葉 今回の研究は、システム構成と画面更新の制御を工夫し、消費電力量を削減することを目指しました。

研究を始めた段階では知識がすべて揃っていたわけではなく、その都度調べながら進めていくことが大変でしたが、楽しくできた部分でもあります。ただ、決められた期間の中である程度の成果を出すためにすべてを一人でやる必要があり、本当にうまくいくのか不安はありました。

— 今回の研究で行った学会発表について教えてください

秋葉 今回のIOT研究会の前にも「情報処理北海道シンポジウム2023」で発表を行っており、今回は2度目の発表でした。シンポジウムではポスター形式の発表でしたが、IOT研究会はプレゼン資料を用いる口頭発表でした。どちらの発表でも様々なフィードバックや実際の現場の声が聞くことができ、色々な人とコミュニケーションできたことが楽しかったです。

— 今後の展望を教えてください

秋葉 現在は大学院で今回の研究を基に、データ通信部分でWi-Fiや有線LANではなく、Bluetoothを使用することで、より省電力化を目指し、画面の表示切替を様々な方法で行える研究を進めようと考えています。

また、今後も様々な技術に関心を持ちモノづくりを楽しんでいきたいです。

今回の研究について、
2023年度新雪プログラムでの発表の様子が
YouTubeに掲載されています。是非ご覧ください。



※新雪プログラムとは、経済産業省 未踏的な地方の若手人材発掘育成支援事業費補助金「AKATSUKIプロジェクト」の支援を受けて実施しているプログラムです。

SCC インターンシップサイト作成



昨年度、安田ゼミの学生が本学のグループ会社でもある株式会社SCC（以下、SCC）のインターンシップ募集サイトの作成を行いました。今回はプロジェクトチームのリーダーを務めた長谷川 准一さんにお話を聞いてみました。

—— まず最初に、このお話をいただいたときにどう感じましたか？

長谷川 ゼミナールの中でSCCのインターンシップサイトの製作チームになると聞き、リーダーに任命されたとき、今までリーダーという役職についていたことがなく、しっかりとチームをまとめられるか、という不安はありました。また、株式会社SCCという大きな会社からプロジェクトを任されたことも不安の要素の一つではありました。

—— 実際にプロジェクトを進めてみてどうでしたか？

長谷川 まず、実際にSCCの方とお会いしてやり取りを進めていく中で、こちらが提案したものとSCCが求めているものに意見の食い違いがあった際に、メンバーのモチベーションを保つのが大変でした。そんな時には、リーダーとしてSCCが求めているものを想定してメンバーに伝えることでなんとか進めていくことができました。

ただ、サイトのデザインの段階で最初に想定していたスケジュールよりも大幅に遅れてしまうなど、期間内でプロジェクトを進めていく難しさと大変さを改めて実感しました。

—— サイトの中でこだわったポイントはありますか？

長谷川 旧サイトは全てが一つのページになっていて、すべての情報を見るためにはスクロールをたくさんする必要があったので、ページを分けてスクロールを少なくすることで余計な情報が見えないような工夫を施しました。あとは、「参加者の声」の部分では、横にスクロールできるようにしたところも、特に苦勞した部分でもあり、こだわりのポイントでもあります。

—— 動画も自分たちで作成したんですね？

長谷川 元々、動画はSCCで作成する予定だったんですが、チームの中に動画担当がいたので、動画も作ろうという流れで

作成することになりました。実際のインターンシップにお邪魔させていただき、素材の動画も撮らせていただいたりしました。ただ、10Daysのインターンシップではすべての日程で参加できなかったり、途中で素材が足りなくなり、動画制作の時間がなかなか取れない時期があったりと、苦勞する点も非常に大きい部分ではありましたが、最終的にはレベルの高い動画になったのではないかと思います。

—— サイトを作ってみて成長した点や今後の改善点などがあれば教えてください

長谷川 リーダーとして初めての経験で色々わからない中、周りの人の助けもありつつ、スケジュールが崩れてしまった時はどうすれば期限内に完結できるかを考えてリスケを行ったり、メンバーのメンタルが落ち込んでしまったときには、モチベーションを上げるために声をかけたり、「立て直す」力やリーダーシップは多少なりとも身についたのではと思っています。

技術面でもわからないところはゼミの先輩に聞いたり、自分で調べることで知識や技術を得ることができて、今回参加してメンタル面でも技術面でも大きく成長できたと感じています。

逆に、SCCとの打ち合わせではあいまいな表現をしてしまいがちで、認識の齟齬が発生し、自分が考えている意図をちゃんと伝えることができませんでした。そこは、今後改善すべき点だと思っています。

参加学生（いずれも情報メディア学科4年（製作時3年））

長谷川 准一さん 小田島 綾音さん 神馬 咲陽さん

シャナンダ レヴェリノさん 山田 寛祐さん

株式会社SCC インターンシップ募集サイト



アントレプレナーシップ 高校生ワークショップ



アントレプレナーシップセンター長
ちかざわ じゅん
近澤 潤 講師

少子高齢化、グローバル化、ICTの発展により、社会構造が急速に変化していることから、現代は「予測が困難な時代」と言われています。そのため、自ら枠を超えて行動を起こし、新たな価値を生み出していくマインドとスキルが求められるようになりました。本学アントレプレナーシップセンターは、2015年の設立当初から、本学の学生が「0から1を生み出す発想力」や「やりたいことを実現する力」を習得することを目指して、様々なイベントや学内環境の整備を行っています。

昨年度からは範囲を広げ、高校コラボワークショップを複数開催しています。高校生にアイデアを考える面白さを体感してもらうことを第一に、ICTとの組み合わせなどについて触れることで「情報大ならでは」のワークショップを行っています。

今後、既に新たな高校でのワークショップが計画されているほか、本学の学生と高校生が合同で行うワークショップやイベントを企画することで、お互いに良い刺激を受けられる場をつくりたいと考えています。

1 白樺学園高等学校 高校生ITアイデアワークショップ

2023年9月8～9日の2日間、2年生16名を対象に、高校生活における「不便」を解決するために、2次元コードを活用したサービスを考え、実際にプロトタイプ制作まで行いました。最終日はピッチを行い、外部有識者からフィードバック、表彰を行いました。



ファシリテーター

安田教授／近澤講師
杉澤講師／八重原広報課職員

メンター

三浦商店
代表取締役社長 三浦 啓太郎氏
中一 ※本学卒業生
代表 中村 真也氏

プレゼンコメンテーター

芽室町役場
(公財)とちか財団「LAND」

生徒の感想 (一部抜粋)

ここで提案したことが本当に実現すると最高に良い場所になると思いました！

この2日間みんなで協力して、メンターの方たちと楽しくできました。

2 白樺学園高等学校 高校生はじめてのアイデアワークショップ

2024年4月17日、入学してまもない1年生8名を対象に、アイデアの生み出し方について触れる入門編として実施しました。

アイデアを考える重要性や、発想法の紹介、グループで発想するルールなどの基本を解説しました。その後は、「十勝で行う夏季オリンピック競技」をテーマに、マインドマップやKJ法を活用してアイデアをまとめました。

発想の重要性を理解するだけでなく、他者の意思や価値観を明確に理解すること、そして何よりアイデアを生み出す楽しさを体感してもらいました。

ファシリテーター・メンター
近澤講師

メンター

安田教授／八重原広報課職員

生徒の感想 (一部抜粋)

これからの時代を生き抜くために必要な発想力を、十勝の特徴や特色を踏まえながら考えられたので、とても楽しかったし、いい経験になりました。



常識にとらわれず、0から1を作ることの面白さ、大変さを知った。考えることは難しくても頭が疲れるが、仲間とアイデアを出すのが面白く、他のグループのアイデアを聞くのが楽しかった。

3 札幌市立平岸高等学校 高校生スキルアップワークショップ(発想編)

2024年6月14日、2年生15名を対象に「デザイン」の広義の意味と重要性を解説の後、「高校生活の課題解決」というテーマで、VPC(価値発掘キャンパス)を用いた発想のグループワークを行いました。

アイデアの考え方のみならず、1つの対象物を複数の視点で捉えるトレーニングを重点的に行うことで、より独創的なアイデアを生み出すスキルを磨きました。最後は、ピッチを行うことで共有・質問し、さらなる気づきを得られるようになりました。

ファシリテーター

近澤講師

メンター

安田教授／八重原広報課職員／大学院2年 岩崎 晃和さん

生徒の感想 (一部抜粋)

様々な視点から考えることの重要性を感じた。1つの問題に対して単純な解決策を出すだけでなく、角度を変えて考えることを大切にしたいと思いました。



またこのようなワークショップがあるならぜひ参加したい。自分で考える力をつけ、もっとスピードアップして意見を出せるようになりたいです。スキルアップのためにこれからも考えることをやめずに勉強したいです。

学生チャレンジ プログラム報告会



6月27日にアントレプレナーシップセンター主催の学生チャレンジプログラムの報告会が開催されました。初年度である2023年度は3チームが採択され、報告会ではそれぞれのチームがプロジェクトの成果を発表しました。発表後はメンターの教職員からフィードバックを受け、学生チャレンジプログラムでの活動を今後の活動に活かしてもらえるよう激励の言葉が送られました。

学生チャレンジプログラムとは

学生のみなさんの「こういうことがしたい!」という思いを実現するために、学生が考えた企画に活動資金の支援やメンターが知識の支援を行うプロジェクト活動です。

Project No.1



音のインスタレーションプロジェクト 『Sound Times』

『Sound Times』は、音に関するインスタレーション作品の制作と展示のプロジェクトで、子ども達の感性や創造力を刺激するという狙いのもと、「音と釣り」「音と波」「音と影絵」「音と木の装置」の4作品を制作し、北海道教育大学アーツ&スポーツ文化複合施設 HUGにて展示しました。

メンバー (いずれも情報メディア学科4年)

リーダー 棚田 隼斗さん / 宮内 康希さん / 星 沙也加さん / 岩橋 龍佑さん / 清水 怜良さん / 小村 穂乃花さん

リーダーからひと言

一つ一つのパーツが完成すること、完成したものをメンバー間で共有すること、それによって全体像が見えてくること、それぞれに喜びがあり、チームで作る楽しさがありました。また、企画書・収支計画書の作成、プレゼンなど、講義では体験できないような実践的な経験が多く積みまました。すべての経験を通して、やってよかったと思います。

Project No.2

短編映画 『君と僕が有る意味は一言』制作プロジェクト

この作品は二人の高校生を題材にした短編映画です。この作品の中で出てくる死を主人公がどう捉え、どう生きていくかを表現しました。追い詰められている人は誰もが自分の苦しみを他人に伝えられるわけではないこと、元気に振舞っている人もどこかで苦しんでいるかもしれないことを伝えたい内容にしています。



リーダーからひと言

自分ひとりでは出来ない中規模の企画を1から作り、様々な人や地域との協力の難しさや楽しさを学ぶことができました。

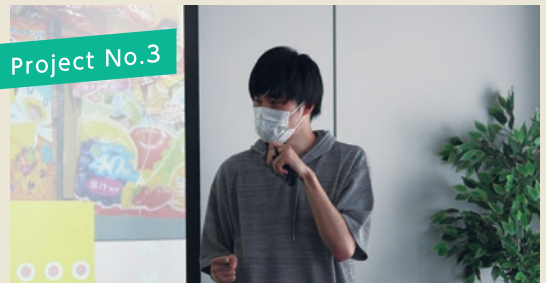
メンバー

リーダー 高橋 一平さん 情報メディア学科3年

佐々木 柁有さん 情報メディア学科3年
荒木 叶斗さん 情報メディア学科2年
星海輝さん 情報メディア学科4年
佐々木 悠希さん 医療情報学科2年
渡辺 想乃さん 情報メディア学科2年
山田 梓さん 情報メディア学科4年

種岡 航平さん 情報メディア学科3年
副島 碩さん 情報メディア学科4年
むとう かく 武藤 樂さん 情報メディア学科3年
山本 佳依さん 情報メディア学科3年
小堀 初さん 情報メディア学科3年

Project No.3



謎解きラリープロジェクト

謎解きを通し、江別市の地域活性を目標として活動を始めたプロジェクトで、実際に2024えべつスノーフェスティバルに参加して作成した謎解きを披露しました。

リーダーからひと言

今年は2024えべつスノーフェスティバルでは、たくさんの人に参加していただき、人と人のつながりとぬくもりを極寒の大地の中感じました。来年も機会があれば活動していきたいです。

メンバー

リーダー 松長 捺真さん 情報メディア学科2年
小野 茜音さん 情報メディア学科2年

はせがわ ゆうしん 長谷川 雄信さん 情報メディア学科4年
大野 俊さん 先端経営学科2年

あんどう ゆうか 安藤 優佳さん 情報メディア学科2年

今年度の採択プロジェクト

(7/31 審査会、8/1 結果通知)

江別の観光振興ゲーム開発プロジェクト

江別市の魅力を発見することができるゲームの開発

リーダー 吉永 誠悟さん 情報メディア学科1年

O's(オビズ)プロジェクト

コミュニケーションツール等を一元化したSNSの作成

リーダー 青木 丈さん 先端経営学科1年

新任教員の

ご紹介

NEW TEACHERS
今年度は4名の教員が新たに着任しました。

情報メディア学部 情報メディア学科

講師

伊藤 マーティ

研究分野 イラストレーション
ロープロアート
アートマネジメント

2017年から情報メディア学科のDTPやデザインエレメント、メディアデザインの基礎演習などで非常勤として講義してきましたが、この度ご縁があって情報メディア学科の教職員として採用されました。



尻別岳の登山

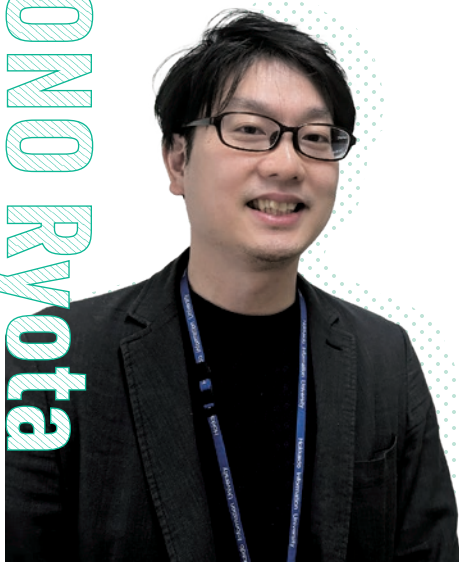


若い頃にはON/OFF両方のオートバイレースやカーレースなどのモータースポーツをしていました。また、サーフィンやウインドサーフィン、ウェイクボードなどのマリンスポーツ、シーカヤック、オープンカヌー、マウンテンバイクなどのアウトドアスポーツ、冬場にはスキー、スノーボード、冬山登山などのウィンタースポーツなど、休みの日に家に居ることは無い生活をしていました。

いろいろなスポーツをやってきましたが、最近では、夏冬通して山へ出かけ遊んでいます。夏場は主に北海道内の山を登り、スケッチしたり写真を撮ったり、時にはキャンプしたりしながら雄大な景色を堪能しています。冬場にはスプリットボード(上りは板をスキーのように分けられる)でバックカントリースノーボードを楽しんでいます。自分でルートを探しながら数時間登り、誰も滑っていないOPB(オープンバーン)を見つけては自分だけのシュプールを刻み自己満足に浸っています。

バックカントリーに興味のある方はぜひ声かけてください! 楽しいですよ!

ONO RYOTA



経営情報学部 システム情報学科

講師

小野 良太

研究分野 人工知能
情報工学
マルチエージェントシステム
情報推薦

AI系のベンチャー企業の代表としてAI開発をしていましたが、その経験をこれから活躍する若い人たちに伝えていきたいと思い、教員になりました。AIの活用方法など実践的な内容を教えていければと思っています。



子どもと遊ぶ休日

元々はジムでトレーニングをしたり、仕事で知り合った知人と飲みにいったりあまり家にいないタイプだったのですが、3年前に子どもが生まれてからは子ども中心の生活で、休日には子どもと公園に行ったり買い物に行ったりして過ごしています。

子どもというのは不思議なもので、育児をしていると、これまで自分中心だった人生の考え方が全く変わり、自分の子どもや将来を担う若者

たちに少しでもより良い社会になるように貢献したい、という気持ちが強くなりました。

子どもが成長するとともに、親の考え方も成長するのだなと日々実感しています。もちろん、学生の皆さんとも共に成長していければと思っています。皆さんと楽しい学生生活が送れるよう私も頑張っていければと思っていますので、よろしくお祈りします。

経営情報学部 先端経営学科

講師 露木 孝尚

研究分野 素粒子物理学

私は素粒子物理学の研究を行っています。物理といってもピンと来ないかもしれませんが、宇宙や量子など、夢も実用性もある楽しい分野です。学生たちにも、物理は本当は面白いということを伝えていきたいと思っています。



ピラニアの刺し身

今年の3月までは東京の大学で働いていました。それまでは北海道にほとんど来たことが無く、こちらの面接と、10数年前に修学旅行で来たのみです。北海道に住んでみると、聞いたことのない声の鳥や虫が鳴いていて驚きました。まだまだ未知の大地なので、これからいろいろと見て回りたいと思っています。北海道でおすすめの場所やイベントなど、教えていただけたら嬉しいです。

趣味は経験したことのないスポーツをやったり、食べたことのない珍しいものを食べたりすることです。スポーツとしては、カバディやセバタクローなどに挑戦してみました。日本代表の方々に直接教えていただいたのが印象的でした。

食べ物としては、クマヤワニ、エミューなどのジビエ系が多いです。基本的に珍しい食材は特別に美味しくはない(笑)なのですが、横浜で食べたピラニアの刺身は鯛に似てとても美味しかったです。近い趣味の方はぜひお声掛けください。

TSUYUKI Takanao



趣味はもっぱら旅行です。私はもともと関西の人間で、北海道には縁もゆかりも無かったのですが、毎年1〜2週間程度北海道を旅するようになり、だったら移住しようということで、こちらに引っ越してきました。

道内各地の風景や、質感、香りなどは何度旅しても新鮮なものがあり、飽きることがありません。今は、179自治体全てに宿泊することをひっそりと目標に掲げています。

食べることも好きで、札幌市内では、着々と飲食店の開拓を進めています。こちらで知り合った人たちが色々とお店を教えてくれるので、一つ一つ回っていると札幌飲食マップが出来上がりました(ピンクが行った店、緑がこれから行く店)。

食べてばかりだとブクブク太ってしまうので、夏はロードバイク、冬はスキーを楽しんでいます。大学の頃は体育会で、競技志向が強いので、将来的にはロードレースやクロスカントリーの大会などにもチャレンジしたいですね。



ロードバイクで洞爺湖を周回

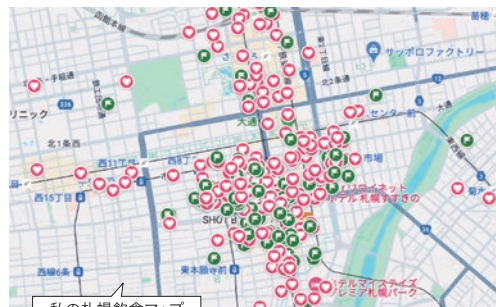
経営情報学部 先端経営学科

講師 福島 健太

研究分野 スタートアップ・エコシステム
アントレプレナーシップ
プロジェクトマネジメント
ミニマリズム
海事産業

地域におけるスタートアップ創出の意義や起業の多様性などについて研究を行っています。「起業」「資金調達」「イグジット」などについて、いかにやるか(How)だけではなく、なぜやるか(Why)を丁寧に考えたいというのが研究の動機です。

FUKUSHIMA Kenta



私の札幌飲食マップ



国際情報プログラム

来年度の本格始動に向けて

キックオフを開催



2024年度からスタートした「国際情報プログラム」への理解を深めるキックオフ会を5月17日に開催し、プログラムへの参加を希望する学生や、関連する教職員併せて約40人が参加しました。

国際情報プログラムは、国際IT人材に必要な「高度な情報技術と専門知識」「国際感覚に優れた人間性」など6つの力を育成するため、3学部4学科が連携して取り組みます。

キックオフ会では、西平学長から外国語を身につけることの意義や、学ぶ際のコツなどを英語で説明したほか、本プログラムの責任教員や各専門分野の教職員9名から、物理学、国際協力、メタバース、SDGs、アントレプレナーシップなど多様な分野に関して説明し、改めて、本プログラムが国際感覚を身につけるだけでなく「高度な情報技術と専門知識」との融合を目指していることを意識づけました。

その後は米国、タイ、韓国などのお菓子を味わいながら、学生と教員が入り混じり交流を行い、世界に羽ばたいていく思いを共有しました。

世界が広がる豆知識

臨床工学技士の仕事



臨床工学技士は、病院内で医療機器の操作や管理を行うスペシャリストです。昨今では、心臓カテーテル手術、ペースメーカ植込み手術、人工透析、内視鏡手術など高度医療機器を使用する手術や治療において医師と一緒に手術室に入り、サポートを行います。

この職業は1988年に国家資格として設立され、現在ではロボット支援手術など高度な医療技術には欠かせない存在となりました。近年の加速度的な医療機器の高度化に伴って、医療現場や医療機器メーカーからの需要が増えています。

また、日本のみならず世界中で問題となっている医療格差の是正においても、大きな役割を担っています。医療格差の問題は、医師の数や医療設備の充実度に地域差があることよって起こります。そのため、都市部から離れたいわゆる田舎では、高度な医療を必要とする患者がいても施術できる医師がいない、環境がないなどの問題から、都市部の病院まで長い時間をかけて移動したりする必要がありました。しかし、ロボット支援手術などの高度医療機器やそれをつなぐネットワーク



が発展すれば、専門の医師が遠隔地からロボットを操作して手術を行ったり、患者の状態や医療機器の稼働状況をリアルタイムでモニタリングしたりすることが可能になります。そうした環境を作り上げ、適切に運用するためには、臨床工学技士の力が不可欠なのです。

本学では、医療と医療機器双方に関する高度な知識を持つ臨床工学技士を育てるだけでなく、ICTの知識も養成できるカリキュラムを用意しています。また、実習にVR(Virtual Reality)を活用し、臨床の現場を何度もシミュレーショントレーニングできるようにし、効率的に経験を積むことも可能にしています。

一方で、これからはVRを体験するだけでなく、医療機器の知識を持つ臨床工学技士が、医療現場のニーズに合わせたコンテンツを作成し、よりリアルな仮想空間をつくるのが期待されています。プログラミングが好きで医療に興味がある学生は、一緒に新たなコンテンツを作成してみませんか？



監修

医療情報学部 医療情報学科

ちば ふみお

准教授 千葉 二三夫

令和5年度 学位記授与式

令和6年3月15日(金)



令和5年度

令和6年度

学位記授与式・入学式 挙行

卒業祝賀会を5年ぶりに開催しました！
教職員と学生が一堂に会し、先の未来や思い出を語り合い、
大学生活最後のひと時を笑顔で締めくくりました。



令和6年度 入学式

令和6年4月4日(木)



OBOG 交流会・ インターンシップ セミナー開催!

6月28日(金)、3年生を対象に「OBOG交流会」、「インターンシップセミナー」を開催しました。

近年の採用活動早期化に伴い、インターンシップの意味合いが本来の『就業体験』から変化し、インターンシップが就職活動のスタートと位置づけられるようになってきました。このような背景から、本学としても学生の積極的な就職活動を後押しすることを目的に実施計画を練り、9社の企業様にご賛同いただき、各社に勤務するOBOGにもご協力いただいで、実施しました。



「OBOG交流会」では、各社に勤務するOBOGから学生時代の経験と勤務経験を併せた就職活動のアドバイスと、この後行う「インターンシップセミナー」に向けた会社紹介を講演形式で行いました。「インターンシップセミナー」では、各社が20分の説明を3回行い、学生は3社の説明を各ブース(教室)に分かれて聞く合同説明会形式で行いました。

実施後のアンケートでは、参加学生からは「就活のスタートダッシュにはとても良いセミナーでした」、「いよいよインターンシップが始まると気が引き締まりました」、「インターンに対して前向きに考えられるようになった」など、実りのあるセミナーだったようです。企業様からは「学生さんお一人お一人が熱心に話を聞いてくれ、大変有意義な時間でした」など、すべての企業様が次年度も是非参加したいとご回答いただきました。

3年生の就職活動はここからがスタートです。卒業生全員の進路決定を目指し、教職員一丸となって個々の学生に寄り添ったサポートをしていきます。

ご協力いただきました各社の採用ご担当者様並びに本学卒業生の皆様はこの場をお借りして改めて感謝申し上げます。

参加企業

株式会社HBA / 株式会社ネクシス / SCSK北海道株式会社
北雄ラッキー株式会社 / アイングループ
株式会社つうけんアドバンスシステムズ / 株式会社SCC
大丸株式会社 / リコージャパン株式会社 (順不同)

学校法人 電子開発学園 令和5年度決算の概要

令和5年度決算が理事会ならびに評議員会で承認されましたので、その概要についてお知らせいたします。

学校法人会計の計算書類は、資金繰りの状態を示す「資金収支計算書」、経営状態を示す「事業活動収支計算書」、財政状態を示す「貸借対照表」により表示し、私立学校法第47条および学校法人会計基準第4条に定められた規則に基づき作成したものです。

1. 資金収支計算書

令和5年度の収支状況を資金収支計算書により資金の流れを予算と決算で比較します。

(1) 収入の部

学生生徒等納付金収入で2億円減少、手数料収入で4億円減少、寄付金収入で2億円増加、補助金収入で7億円減少、付随事業・収益事業収入で5億円増加、受取利息・配当金収入で4億円増加、雑収入で2億円増加、学費前受金収入で77億円増加、その他の収入で22億円増加し、収入の部合計は119億16百万円となりました。

(2) 支出の部

人件費で3億円減少、教育研究経費及び管理経費で77億円減少、施設関係支出で5億円増加、設備関係支出で6億円減少、資産運用支出で3億78百万円増加、その他の支出で15億円増加しました。翌年度繰越支払金は64億49百万円で8億円増加し、支出の部合計は119億16百万円となりました。

2. 事業活動収支計算書

令和5年度の事業活動状況を事業活動収支計算書により「教育活動収支」、「教育活動外収支」、「特別収支」の3つの事業活動に区分し、それぞれの収支状況を予算と決算で比較します。

(教育活動収支)

(1) 収入の部

学生生徒等納付金で2億円減少、手数料で4億円減少、寄付金で2億円増加、経常費等補助金で7億円減少、付随事業収入で5億円増加し、収入合計は50億22百万円で、5億円減少となりました。

(2) 支出の部

人件費で2億円減少、教育研究経費及び管理経費で77億円減少、徴収不能額等で4億円増加し、支出合計は43億95百万円で、75万円減少となりました。「教育活動収支差額」は6億27百万円で、70万円増加となりました。

(教育活動外収支)

(1) 教育活動外収入計は、受取利息・配当金の1億1百万円で4百万円増加となりました。

(2) 教育活動外支出計は、借入金等利息の5百万円の予算額となりました。「教育活動外収支差額」は96百万円で、4百万円増加となりました。「経常収支差額」は7億23百万円で、74百万円増加となりました。

(特別収支)

(1) 現物寄付等が1百万円増加し、特別収入計は22百万円で、1百万円増加となりました。

(2) 資産処分差額が4百万円増加し、特別支出計は11百万円で、3百万円増加となりました。「特別収支差額」は11百万円で、3百万円減少となりました。

「基本金組入前当年度収支差額」は7億34百万円で71百万円増加となりました。「基本金組入額合計」は11億円で3億19百万円増加となりました。「当年度収支差額」は3億66百万円で2億48百万円減少となりました。「翌年度繰越収支差額」は17億33百万円で2億48百万円減少となりました。

3. 貸借対照表

令和5年度の財政状態を貸借対照表により本年度末と前年度末で比較します。

(1) 資産の部

合計で177億22百万円と前年度末対比で1億33百万円増加しました。「固定資産」は主に建物が大学及び専門学校の空調更新工事等で3億45百万円増加、大学の厚生棟体育館床改修工事等の除却で1百万円減少、減価償却額で1億88百万円減少しました。構築物は大学の学生駐車場整備工事等で35百万円増加、減価償却額で8百万円減少しました。教育研究用機器備品は大学の新生用ノートPC、実習室用機器等、専門学校の実習室用ゲーミングノートPC等備品で2億15百万円増加、大学及び専門学校のパソコン等の除却で1百万円減少、減価償却額で1億34百万円減少しました。管理用機器備品はサーバ等で5百万円増加、減価償却額で6百万円減少しました。図書は書籍等で5百万円増加、除却で6百万円減少しました。第2号基本金引当特定資産は4億50百万円増加、退職給与引当特定資産は21百万円増加しました。ソフトウェアは減価償却額で30百万円減少しました。有価証券は期限前償還により3億円減少しました。これにより固定資産合計111億40百万円で3億99百万円増加となりました。「流動資産」は65億81百万円で2億66百万円減少となりました。主に現金預金が1億14百万円減少、未収入金が1億55百万円減少となりました。

(2) 負債の部

合計で21億66百万円と前年度末対比で6億1百万円減少しました。

「固定負債」はeDCタワー等の長期借入金が42百万円減少、退職給与引当金が21百万円増加、長期末払金が21百万円減少し、合計41百万円減少となりました。「流動負債」は未払金が1億96百万円減少、学費前受金が4億77百万円減少し、合計5億59百万円減少となりました。

(3) 純資産の部

合計で155億56百万円と前年度末対比で7億34百万円増加しました。

「基本金」は138億23百万円で固定資産のうち継続的に保持すると判断されるものの額を示す第1号基本金の組入額が6億50百万円増加、将来取得する固定資産の取得に充てる資産の額である第2号基本金の組入が4億50百万円増加しました。

1. 資金収支計算書 令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

収入の部 (単位:円)			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	4,093,075,000	4,091,028,200	2,046,800
手数料収入	42,577,000	38,944,764	3,632,236
寄付金収入	3,336,000	5,687,000	△2,351,000
補助金収入	603,200,000	596,377,554	6,822,446
国庫補助金収入	469,110,000	462,710,100	6,399,900
地方公共団体補助金収入	134,090,000	133,667,454	422,546
資産売却収入	20,000	300,392,400	△300,372,400
付随事業・収益事業収入	244,775,000	249,891,190	△5,116,190
受取利息・配当金収入	97,488,000	101,219,742	△3,731,742
雑収入	45,755,000	48,208,452	△2,453,452
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	949,781,000	1,026,771,477	△76,990,477
その他の収入	422,243,000	444,280,180	△22,037,180
資金収入調整勘定	△1,510,142,000	△1,550,070,999	39,928,999
前年度繰越支払資金	6,563,543,000	6,563,543,020	△20
収入の部合計	11,555,651,000	11,916,272,980	△360,621,980

支出の部 (単位:円)			
科目	予算	決算	差異
人件費支出	1,788,873,000	1,786,182,547	2,690,453
教育研究経費支出	1,646,494,000	1,605,974,677	40,519,323
管理経費支出	611,021,000	574,616,317	36,404,683
借入金等利息支出	4,927,000	4,926,495	505
借入金等返済支出	41,661,000	41,660,000	1,000
施設関係支出	374,761,000	379,660,171	△4,899,171
設備関係支出	230,567,000	224,652,562	5,914,438
資産運用支出	106,462,000	484,245,765	△377,783,765
その他の支出	774,643,000	789,152,853	△14,509,853
資金支出調整勘定	△464,639,000	△423,899,805	△40,739,195
翌年度繰越支払資金	6,440,881,000	6,449,101,398	△8,220,398
支出の部合計	11,555,651,000	11,916,272,980	△360,621,980

活動区分資金収支計算書 令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

			(単位:円)	
科目			金額	
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	4,091,028,200	
		手数料収入	38,944,764	
		特別寄付金収入	4,876,500	
		一般寄付金収入	589,000	
		経常費等補助金収入	581,072,554	
		付随事業収入	249,891,190	
		雑収入	45,402,614	
		教育活動資金収入計	5,011,804,822	
	支出	人件費支出	1,786,182,547	
		教育研究経費支出	1,605,974,677	
管理経費支出		571,911,960		
教育活動資金支出計	3,964,069,184			
差引	1,047,735,638			
調整勘定等	△406,168,173			
教育活動資金収支差額	641,567,465			
施設整備等活動による資金収支	収入	施設設備寄付金収入	221,500	
		施設設備補助金収入	15,305,000	
		施設設備売却収入	392,400	
		施設整備等活動資金収入計	15,918,900	
	支出	施設関係支出	379,660,171	
		設備関係支出	224,652,562	
		第2号基本金引当特定資産繰入支出	450,000,000	
	施設整備等活動資金支出計	1,054,312,733		
	差引	△1,038,393,833		
	調整勘定等	△99,889,059		
施設整備等活動資金収支差額	△1,138,282,892			
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	△496,715,427			

			(単位:円)	
科目			金額	
その他の活動による資金収支	収入	有価証券売却収入	300,000,000	
		退職給与引当特定資産取崩収入	13,177,722	
		その他の収入	191,762,593	
		小計	504,940,315	
	支出	受取利息・配当金収入	101,219,742	
		過年度修正収入	2,805,838	
		その他の活動資金収入計	608,965,895	
	支出	借入金等返済支出	41,660,000	
		退職給与引当特定資産繰入支出	34,245,765	
		その他の支出	143,001,960	
小計		218,907,725		
支出	借入金等利息支出	4,926,495		
	過年度修正支出	2,704,357		
	その他の活動資金支出計	226,538,577		
差引	382,427,318			
調整勘定等	△153,513			
その他の活動資金収支差額	382,273,805			
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)	△114,441,622			
前年度繰越支払資金	6,563,543,020			
翌年度繰越支払資金	6,449,101,398			

2. 事業活動収支計算書 令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

(単位:円)

科目		予算	決算	差異
教育活動収支	事業活動収入の部			
	学生生徒等納付金	4,093,075,000	4,091,028,200	2,046,800
	手数料	42,577,000	38,944,764	3,632,236
	寄付金	3,265,000	5,465,500	△2,200,500
	経常費等補助金	587,801,000	581,072,554	6,728,446
	国庫補助金	453,711,000	447,405,100	6,305,900
	地方公共団体補助金	134,090,000	133,667,454	422,546
	付随事業収入	244,775,000	249,891,190	△5,116,190
	雑収入	55,499,000	55,112,587	386,413
	教育活動収入計	5,026,992,000	5,021,514,795	5,477,205
事業活動支出の部				
人件費	1,819,347,000	1,816,994,583	2,352,417	
教育研究経費	1,970,339,000	1,931,287,010	39,051,990	
管理経費	652,646,000	614,712,282	37,933,718	
徴収不能額等	27,575,000	31,627,700	△4,052,700	
教育活動支出計	4,469,907,000	4,394,621,575	75,285,425	
教育活動収支差額	557,085,000	626,893,220	△69,808,220	

(参考)

(単位:円)

事業活動収入計	5,145,507,000	5,144,314,547	1,192,453
事業活動支出計	4,482,471,000	4,410,615,201	71,855,799

(単位:円)

科目		予算	決算	差異
教育活動外収支	事業収入の活動部			
	受取利息・配当金	97,488,000	101,219,742	△3,731,742
	その他の教育活動外収入	0	0	0
	教育活動外収入計	97,488,000	101,219,742	△3,731,742
	事業支出の活動部			
	借入金等利息	4,927,000	4,926,495	505
	その他の教育活動外支出	0	0	0
	教育活動外支出計	4,927,000	4,926,495	505
	教育活動外収支差額	92,561,000	96,293,247	△3,732,247
	経常収支差額	649,646,000	723,186,467	△73,540,467
特別収支	科目	予算	決算	差異
	事業収入の活動部			
	資産売却差額	20,000	70,544	△50,544
	その他の特別収入	21,007,000	21,509,466	△502,466
	特別収入計	21,027,000	21,580,010	△553,010
	事業支出の活動部			
	資産処分差額	4,820,000	8,362,774	△3,542,774
	その他の特別支出	2,817,000	2,704,357	112,643
	特別支出計	7,637,000	11,067,131	△3,430,131
	特別収支差額	13,390,000	10,512,879	2,877,121
基本金組入前当年度収支差額	663,036,000	733,699,346	△70,663,346	
基本金組入額合計	△780,610,000	△1,099,692,023	319,082,023	
当年度収支差額	△117,574,000	△365,992,677	248,418,677	
前年度繰越収支差額	2,099,036,000	2,099,036,088	△88	
翌年度繰越収支差額	1,981,462,000	1,733,043,411	248,418,589	

3. 貸借対照表 令和6年3月31日

資産の部

(単位:円)

科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	11,140,270,470	10,741,494,655	398,775,815
有形固定資産	6,744,091,980	6,483,643,992	260,447,988
土地	1,725,516,149	1,725,516,149	0
建物	3,970,540,013	3,815,461,123	155,078,890
構築物	100,006,433	72,964,043	27,042,390
教育研究用機器備品	439,772,093	359,995,086	79,777,007
管理用機器備品	39,597,834	40,771,787	△1,173,953
図書	463,444,188	464,525,003	△1,080,815
車両	5,215,270	4,410,801	804,469
特定資産	1,049,951,034	578,882,991	471,068,043
第2号基本金引当特定資産	700,000,000	250,000,000	450,000,000
退職給与引当特定資産	349,951,034	328,882,991	21,068,043
その他の固定資産	3,346,227,456	3,678,967,672	△332,740,216
ソフトウェア	118,293,943	148,243,643	△29,949,700
有価証券	2,700,000,000	3,000,000,000	△300,000,000
長期預金	500,000,000	500,000,000	0
その他の固定資産	27,933,513	30,724,029	△2,790,516
流動資産	6,581,392,177	6,847,029,735	△265,637,558
現金預金	6,449,101,398	6,563,543,020	△114,441,622
未収入金	86,190,152	241,144,095	△154,953,943
その他の流動資産	46,100,627	42,342,620	3,758,007
資産の部合計	17,721,662,647	17,588,524,390	133,138,257

負債の部

(単位:円)

科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	565,871,030	607,184,477	△41,313,447
長期借入金	208,300,000	249,960,000	△41,660,000
退職給与引当金	349,985,054	328,882,991	21,102,063
長期未払金	7,585,976	28,341,486	△20,755,510
流動負債	1,600,108,269	2,159,355,911	△559,247,642
短期借入金	41,660,000	41,660,000	0
未払金	434,721,806	630,822,339	△196,100,533
前受金	1,026,771,477	1,434,034,377	△407,262,900
預り金	96,954,986	52,839,195	44,115,791
負債の部合計	2,165,979,299	2,766,540,388	△600,561,089

純資産の部

(単位:円)

科目	本年度末	前年度末	増減
基本金	13,822,639,937	12,722,947,914	1,099,692,023
第1号基本金	12,819,639,937	12,169,947,914	649,692,023
第2号基本金	700,000,000	250,000,000	450,000,000
第4号基本金	303,000,000	303,000,000	0
繰越収支差額	1,733,043,411	2,099,036,088	△365,992,677
翌年度繰越収支差額	1,733,043,411	2,099,036,088	△365,992,677
純資産の部合計	15,555,683,348	14,821,984,002	733,699,346
負債及び純資産の部合計	17,721,662,647	17,588,524,390	133,138,257

北海道情報大学教育研究振興募金のお願い

本学では、グローバル人材育成活動、学生支援、教育研究支援、地域連携活動、教育施設・設備整備を遂行する資金確保を目的として「北海道情報大学教育研究振興募金」の募集を行っております。本募金の趣旨にご賛同いただける場合は、ご支援ご協力をお願いいたします。



北海道情報大学教育研究振興募金

検索

江別市ふるさと納税を活用した市内高等学校及び大学の支援について

令和4年7月27日より、江別市ふるさと納税の寄附先メニューにて「北海道情報大学」を選択して寄附ができるようになりました。納められた寄附金額の一部は、本学の教育環境の充実のために活用されています。



江別市ふるさと納税 情報大

検索

09

2024

～18日(水) 夏季休業期間

19日(木) 後期スタートアッププログラム

20日(金) 後期 授業開始

23日(月) 通常授業

10

2024

11日(金) 授業休業日

12日(土)～13日(日) 蒼天祭

19日(土) 月曜授業日

11

2024

4日(月) 通常授業日

12

2024

28日(土)～ 年末年始休業期間

01

2025

～5日(日) 年末年始休業期間

14日(火) 授業休業日

22日(水)～23日(木) 合同試験日

24日(金)～ 春季休業期間

02

2025

2日(日)～3日(月) 一般1期入試

10日(月)～15日(土) 冬期集中授業期間

17日(月)～22日(土) 追再試験期間

03

2025

13日(木) 学位記授与式

職員

あまの りゅうせい
天野 龍誠 会計課ひきた みずき
疋田 瑞季 総務課ふくおか みお
福岡 美緒 通信教育部事務部天野
朝食より睡眠福岡
おしゃれ喫茶専門家疋田
お笑い大好き芸人

4月を迎え、新入生、新任教員、新入職員たちが仲間入りとなり、盛り上がっているキャンパスです。

体育祭、コンテストなど学内の活動だけでなく、企業や地域とのコラボプロジェクトも活発となっています！「学生時代こんな経験がしたかった!と思うプロジェクトやイベントがたくさんだなあ…」と自身の学生時代を振り返り、うらやましく思いました。

紙面に載せきれない情報は随時更新されている公式SNSでぜひチェックしてみてください！

大学広報プロジェクトメンバー

あんぱいたかし おだじま けいた きのした あつし
安倍 隆 / 小田島 敬太 / 木下 篤史
こんどう たつひと さとう まみこ なかみち だいき
近藤 達人 / 佐藤 真美子 / 中道 大樹
にたとり かつま はさお りゅうとく
似鳥 克馬 / 波佐尾 隆徳

「ななかまど」バックナンバーは
大学Webサイトでご覧いただけます。

情報大 ななかまど

検索



情報大の最新情報は公式SNSで!
YouTube / Instagram / X / Facebook

情報大 公式SNS

検索





北海道情報大学

〒069-8585 北海道江別市西野幌 59-2
TEL: 011-385-4411 (代表)